

令和4年度



～持続可能な地域を目指して～

新たな地域コミュニティ 推進に向けて

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

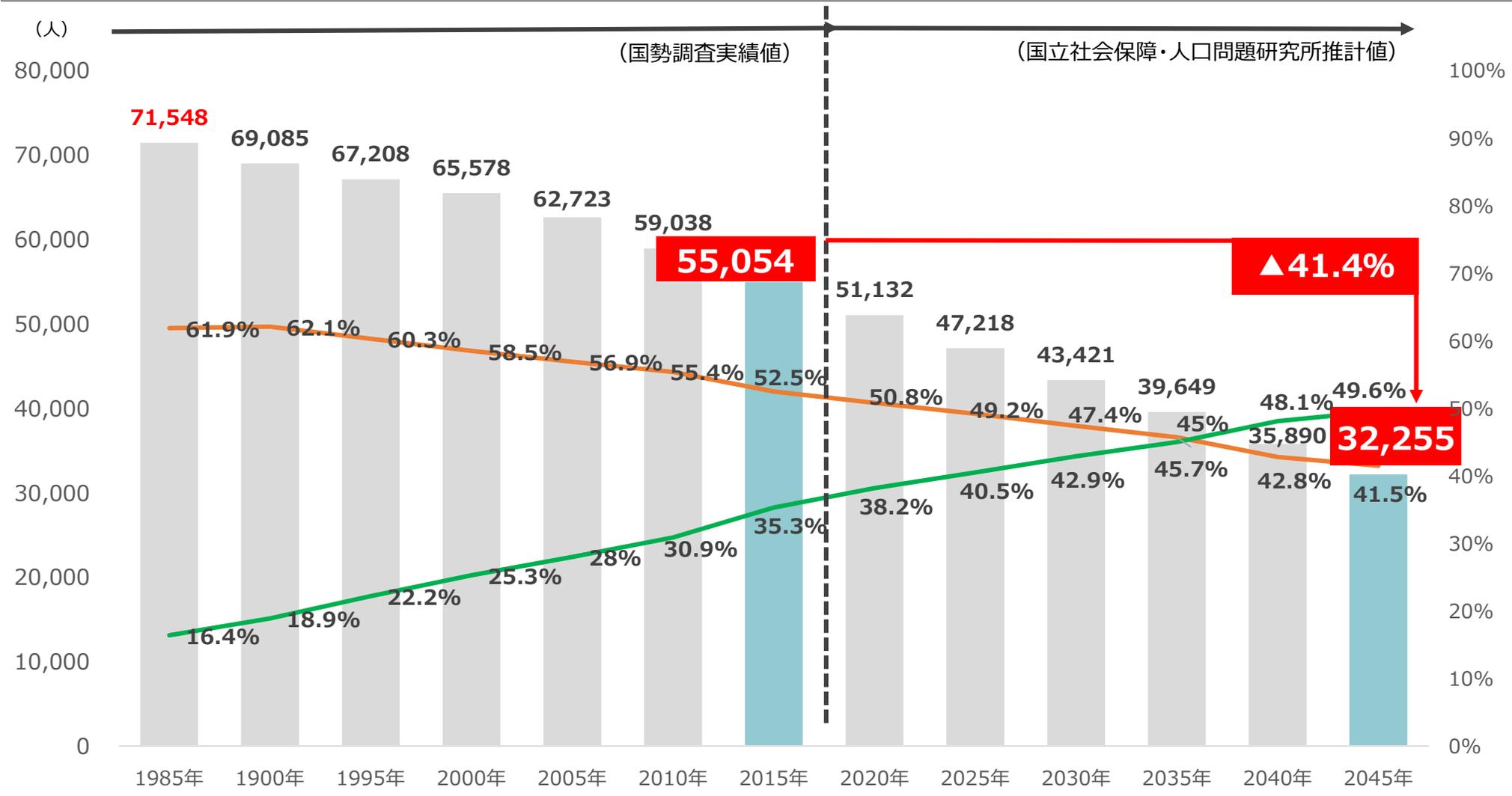
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



京丹後市 市長公室 地域コミュニティ推進課

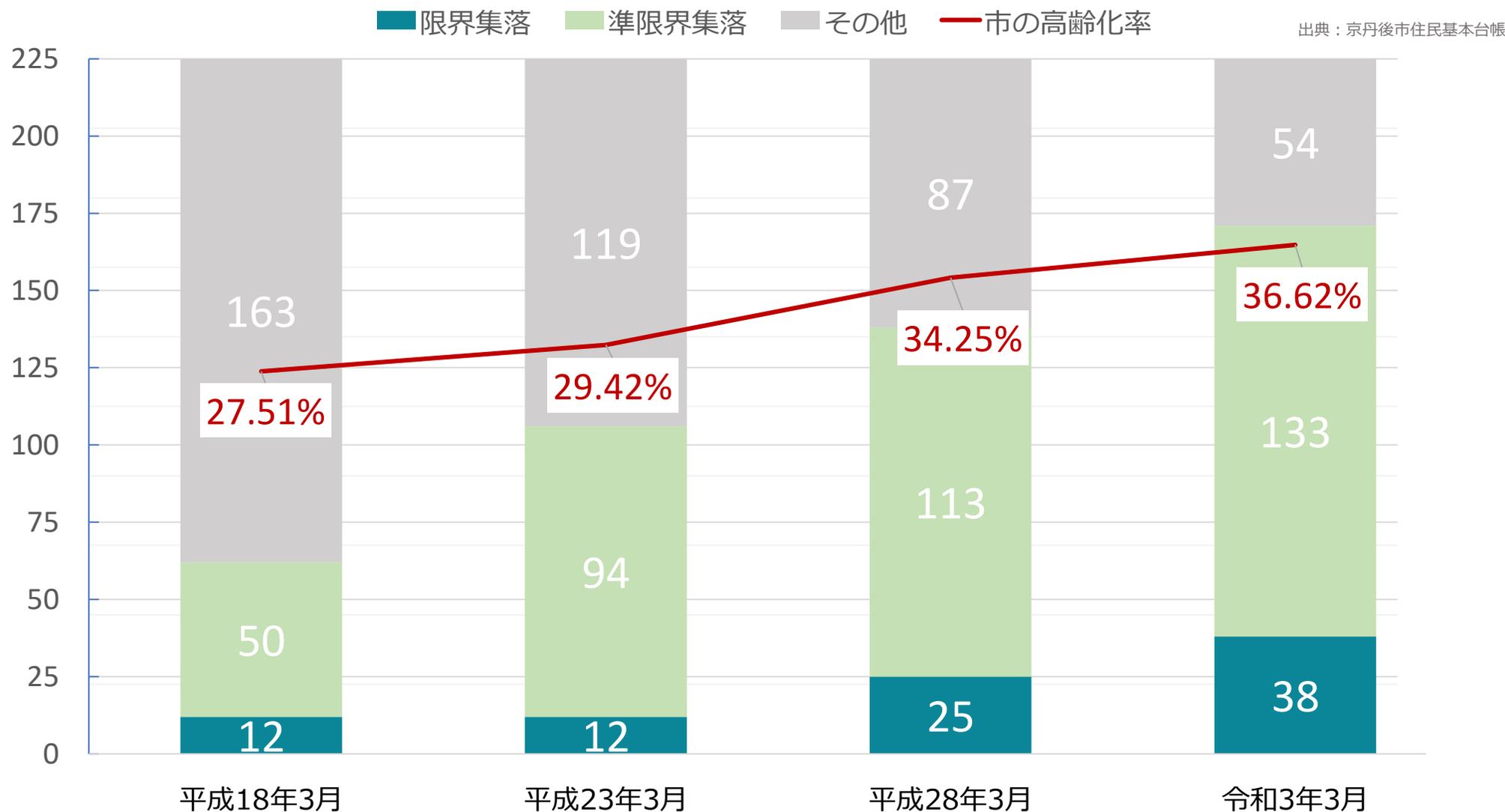
京丹後市の人口推移

- 2045年の推計人口は32,255人（2015年比41.4%減少）
- 2045年には概ね2人に1人が65歳以上となる見込み



(出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計)

行政区の高齢化の状況



人口減少や高齢化により、行政区の機能低下が懸念される

人口減少や高齢化が地域に及ぼす影響

環境整備



防災活動



高齢者支援



祭り



子ども会



運動会



除雪



マルシェ



今後、地域活動が継続できなくなる恐れがある

行政区単独では解決できない課題の増加

例えば…

買い物



移動など生活支援



空き家



買い物や移動（民業の撤退）、空き家など地域課題が多様化



行政区単独では解決できない課題が増加している

市の取り組み経過

平成28年12月

京丹後市まちづくり委員会より
「持続可能な地域づくりに向けての提言書」

平成30年4月～

小規模多機能推進補助金を創設

令和元年度

市長公室・教育委員会事務局が主催し、
市内全区長会等で説明会を開催
持続可能な地域づくりについて
～「新たな地域コミュニティ」の必要性～

令和3年4月

地域コミュニティ推進課を設置

区は
そのまま

新
コミ

新たな地域コミュニティ

行政区を越えた広域で連携

若者や女性も活躍



新たな地域コミュニティの活動例 (イメージ)



現状把握
活動整理

ありたい姿

多様な関わり
※活動人口が増え多彩に

課題解決
継承・活性化

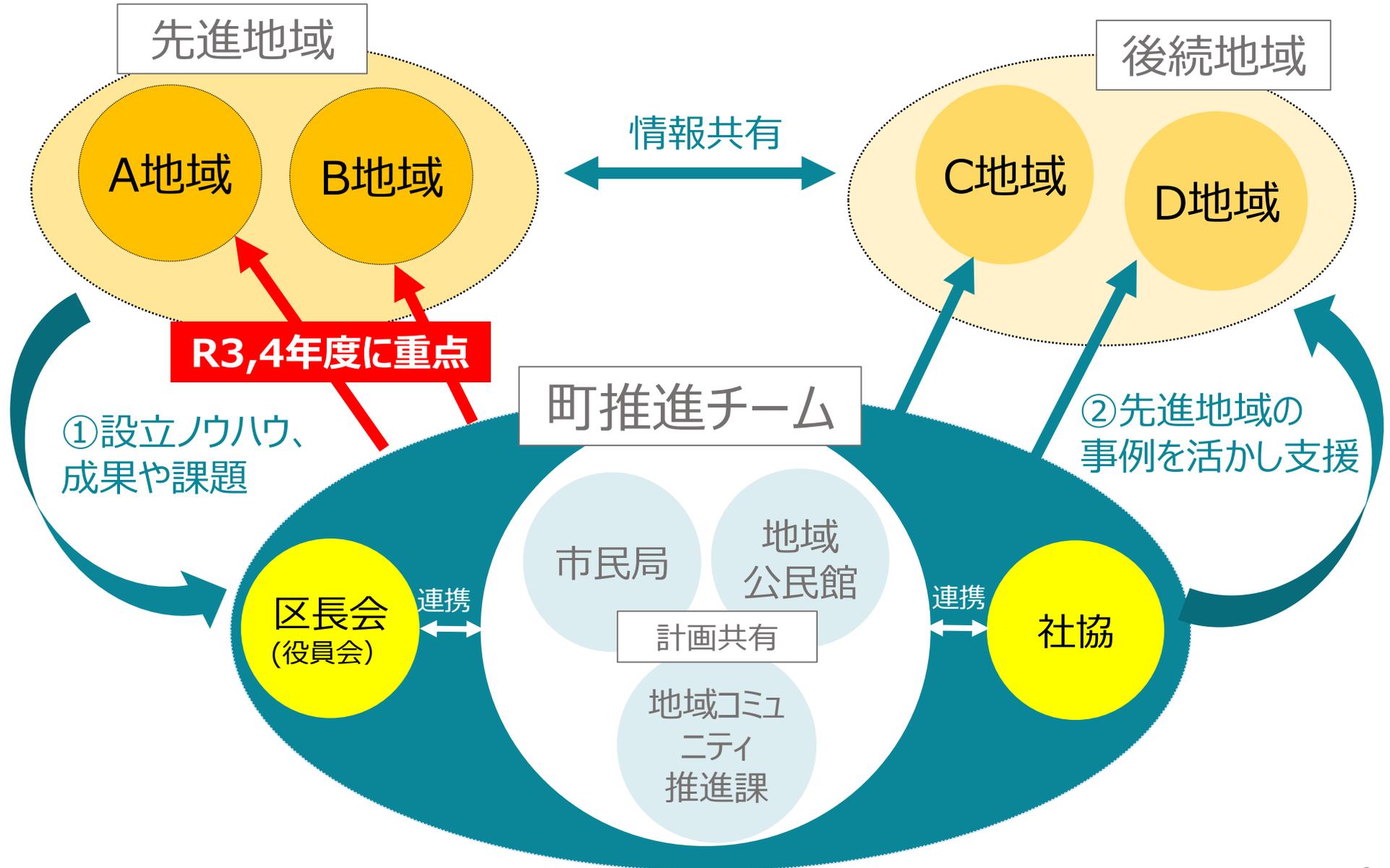
元気で楽しく住みやすい地域づくり

協同労働による地域づくり（イメージ）

事業化により雇用を創出し持続可能な体制を構築、多様な地域課題を解決！

- ・高齢者介護
- ・障がい者支援
- ・子育て支援
- ・自立支援
- ・廃校活用
- ・空き店舗活用
- ・耕作放棄地・山の活用
- ・リサイクル、製造事業
- ・清掃、設備等ビルメン
- ・物流
- ・移送
- ・緑化、剪定
- ・継業
- ・インターンシップ など





新たな地域コミュニティ設立までの流れ

- 新たな地域コミュニティ組織にはできる機能から備えていただくこと期待
- 推進にあたっては行政の担当部局や社会福祉協議会など関係機関と連携

①地域防災（まもる）

地域防災計画の策定、避難所運営マニュアルの作成、防災訓練、防災リーダー育成、被災体験の共有など



④生涯学習（まなぶ）

多世代が集う取り組みの企画・開催（文化祭、運動会など）、地域の歴史文化を学ぶセミナーの開催など



②長寿福祉（ささえる）

サロンやカフェの開催、高齢者の見守り、生活相談窓口の設置、買い物や移動支援、福祉委員や民生委員との連携など



⑤関係人口（つなげる）

地域ファンづくり、空家活用（空き家の発掘、シェアハウスなどお試し住宅の運営）、移住希望者のサポート、体験交流イベントなど



③子ども（はぐくむ）

子どもの居場所づくり・地域版学童保育、登下校の見守り・声かけ、子ども食堂、ふるさと教育、地域体験など



⑥地域創生（かせぐ）

地域資源を活用した収益事業（ふるさと納税の返礼品等）、多面的機能支払交付金等の広域化、労働者協同組合の検討など、財源確保の取組



期待する
6つの
機能

ポイント

- インターネットやSNSを活用するなどして共感の輪を拡げる
- 女性、若者などの参画を進め、プレイヤーの発掘や育成に務める
- 個々の行政区で行った方が効果的なもの、狭い範囲で支え合った方が効果を期待できるものは、これまでどおり行政区として取り組む